

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13332

研究課題名(和文) 漢訳仏教文献によるガンダーラ仏教研究

研究課題名(英文) A study of Gandharan Buddhism based on Chinese translation Buddhist texts

研究代表者

石田 一裕 (ISHIDA, Ichiyu)

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：20451031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、漢訳阿毘達磨文献、特に『大毘婆沙論』と『阿毘曇毘婆沙論』を中心に、ガンダーラに展開したと考えられる西方諸師の学説を検討することで、ガンダーラ有部の思想を明らかにすることを目的とした。研究成果としては、両毘婆沙論における西方諸師説の書き下し分一覧表の作成と、西方諸師の経・論伝承についての解明、の二つを得ることができた。この点について、学会発表や論文を通じて成果を報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は漢訳された仏教文献に基づき古代ガンダーラ地域の仏教思想の一端を明らかにした。考古学的な知見や近年研究が進むアフガニスタンなどからの新出文献資料と共に、ガンダーラ仏教の思想を多角的に把握する役割を持ったといえる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the thought of the Sarvastivadin school in Gandhara by examining the theories of Pascattya, scholars in Western region, in the Abhidharma Mahavibhāsa Sastra (Apidamo da piposha lun) and the Abhidharma Vibhāsa Sastra (Apitan piposha lun). The results of the study are (1) the preparation of a list of theories of PPascattya in the Abhidharma Mahavibhāsa Sastra and the Abhidharma Vibhāsa Sastra, and (2) the clarification of tradition on Sutras and Abhidharmas of Pascattya.

研究分野：仏教学

キーワード：西方諸師 大毘婆沙論 ガンダーラ ガンダーラ有部 カシミール有部

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) ガンダーラ仏教研究は仏像や遺跡などの考古学的資料を中心として構築されてきたが、1990年代にアフガニスタンから仏教写本が新出して以降、Ancient Buddhist Scrolls from Gandhara (Richard Salomon 1999) を嚆矢として新出写本研究に基づいた研究が国内外で進展した。一方で、漢訳アビダルマ文献についてはガンダーラ仏教研究の資料として重要視されることなく、ガンダーラ仏教研究という観点からの考察は十分ではなかった。

(2) 本研究代表者はそのような状況のもと、より多角的なガンダーラ仏教研究を目指して『大毘婆沙論』と『阿毘曇毘婆沙論』の両毘婆沙論を対象として、従来ガンダーラ有部と関係が深いとされてきた西方諸師学説の研究を行ってきた(大正大学提出博士論文『ガンダーラ有部の研究 有部論書における西方諸師説を通じて』2010)。この研究では、西方諸師説の収集と検討を通じて、ガンダーラ有部の特質を明らかにするとともに、説一切有部という部派において、ガンダーラとカシミールに展開した教団の思想について、地域に着目した検討を行った。

(3) そのような研究を通じて、ガンダーラ仏教に関して、これまで蓄えられてきた考古学的研究の成果、また新出資料の解読によって得られる新たな情報について、漢訳アビダルマ文献を詳細に研究することで、それらの知見がより活かされるという、研究の有用性を確信した。そのために、両毘婆沙論に説かれる西方諸師説を網羅し、その意味を把握することと、それらの学説が他文献とどのように関係するかを検討することの二点が必要であるという認識に至った。

2. 研究の目的

(1) 『大毘婆沙論』と『阿毘曇毘婆沙論』における西方諸師学説を収集し、解読を通じてその特徴を明らかにすること。また、説一切有部内における思想的意義と各学説の成立過程を解明すること。

(2) ガンダーラ仏教教団の成立背景とその後の影響を解明すること。両毘婆沙論の西方諸師説を讀解して得た知見をもとに、それらの説が種々の経論においてどのような影響を与えたか、その逆に様々な経論の影響が西方諸師説の形成に関係したかを明らかにすること。

3. 研究の方法

(1) 『大毘婆沙論』『阿毘曇毘婆沙論』の電子テキストデータ(SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベース)を対象として、検索作業を中心にそれぞれの文献に確認できる西方諸師の学説を収集する。これによって先行研究を精査し、より精密な情報を得る。

(2) 収集した原文を讀解し、書き下しを作成する。必要に応じて、その原文を含む一節など周辺の情報を収集し、これについても讀解する。

(3) 西方諸師説と関連する経・論、特に両毘婆沙論が西方諸師説を紹介する際に言及や、引用するものを調査し、出典を明らかにする。また、それについて両毘婆沙論原文との比較を行う。これらの経・論に梵語原文、あるいは複数の漢訳などがある場合には、その資料の対応箇所も讀解し、文献間の相違を明らかにするとともに、両毘婆沙論に説かれる西方諸師説と比較検討を行う。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果

両毘婆沙論に説かれる西方諸師説を収集し、それを書き下したものに、学説の要点を記して一覧表としてまとめた。この一覧表は『大毘婆沙論』における合計25説(種類としては20説)、『阿毘曇毘婆沙論』における7説、合計すると計32説、種類としては21説の西方諸師説を収録するものである。

『大毘婆沙論』に説かれる「西方尊者」という名称と、その名のもとに紹介される学説の一つである順決択分の十七門分別を考察した。この考察においては、『大毘婆沙論』全文を対象に「尊者」全用例を収集し、検討を加えた。収集した全1027回の用例を、文脈の讀解に基づいて考察した結果、a)敬称、b)代名詞、c)その他、の三つに分類できることが明らかになった。a)敬称として用いられる場合には、基本的に修飾する単語の前に置かれることが多く、後ろに付されることが少ないことが判明した。さらに『俱舍論』梵本において西方諸師(pāścātya)の用例を調べ、この語には尊者と訳されるような梵語(bhadantaやsthavira)が付されないことを明らか

にし、西方尊者が玄奘の意識である可能性を指摘した。意識の意図を解明するため『大毘婆沙論』の第6巻と第7巻に説かれる順決択分の十七門分別を検討し、この意識が行われた理由を考察した。これによって『大毘婆沙論』における西方尊者の十七門分別は、『發智論』には説かれないう・燻・頂・忍・世第一法の四種の順決択分について、『大毘婆沙論』の議論の枠組みに速やかに導入するために用いられている可能性を指摘した。

『大毘婆沙論』における西方諸師説のうち、『發智論』見蘊念住納息が經典を引用して議論を展開する部分について考察を行った。当該箇所は、カシミール有部とガンダーラ有部が異なる文言を有する「涅槃經」を保持していた可能性を示唆する箇所である。この検討にあたっては、まず『大毘婆沙論』における学説を検討した。次に『發智論』と『八犍度論』の原文を考察し、両論がカシミール有部の伝承を保持していることが明らかになった。最後に現存する諸涅槃經の当該箇所の調査を行った。この調査を通じて『根本説一切有部毘奈耶』「雜事」、またそのチベット語訳が『大毘婆沙論』におけるカシミール有部伝承の涅槃經と類似し、法顯訳『大般涅槃經』と『般泥洹經』はガンダーラ有部説と共通する点があることが判明した。これらの考察を通じて、同一名の論書に異本が存在したが、それぞれの伝承が尊重されていたこと、經典についても同様の状況があったと考えられること、有部内において三蔵に納められる文献とそうでないものについては一定の共有がなされていたことを、指摘した。

西方諸師の六修説、特に防護修について考察した。『大毘婆沙論』には防護修が三度表れるが、この根拠としていずれも經典の文言があげられる。そこでこの經典に着目し、防護修の成立を検討した。先行研究はこの經典を『雜阿含經』第279經と同定するが、この經は根律儀の典拠となるものとも類似する。根律儀については『俱舍論』業品、さらに『声聞地』や『集異門足論』にも記述がある。これらの經典と防護修の典拠となる『雜阿含經』第279經の関係について、先行研究を踏まえた、比較考察を行った。結果としてこれら諸經は、有部相応阿含の六入処章に所収されるものであることが判明した。西方諸師が、それらに基づきつつ防護修の存在を指摘したことは、彼らの經典を重視する態度の現れであることを指摘した。

以上四点について、学会発表、論文を通じて研究成果の公開に努めた。

(2) 研究の展開

当初の予定には組み込まれていなかったが、研究を進める中でアビダルマ研究、また『大毘婆沙論』研究の可能性を考えることになり、数名の研究者とともに情報交換を行いながら、研究を進めた。(1) の研究を行う中で、『大毘婆沙論』における經典引用とガンダーラ有部の関係についての情報収集が必要となった。その中で得た知見を「『大毘婆沙論』の可能性」(2019年日本印度学仏教学会)として発表した。この発表では、『大毘婆沙論』の引用文を参考にすることで、現存する經典の部派所属を決定できる可能性をと題した発表の中で指摘した。またこれまでのアビダルマに対する研究を整理し、漢訳アビダルマ文献研究の有用性と可能性に言及した。

(3) 研究の課題

上記以外の成果として『大毘婆沙論』における一因多果・多因一果説の検討を行った。この二説は、「發智論」の読解に関わる学説であり、「發智論」の系統を考える資料となるものである。従来、『八犍度論』は『發智論』と同じカシミール有部の所伝とされてきたが、一因多果・多因一果説の検討では『八犍度論』が西方諸師説と一致する文言を保持していることが確認された。『八犍度論』の系統については、『發智論』さらに『大毘婆沙論』との比較考察を通じて、より詳細な研究が必要であろう。また国内ガンダーラ仏像の調査を行い、考古学的な資料の総合的なデータベースがないことや、作品の真贋についての評価手法について知見を得ることができた。本研究は文献からガンダーラ仏教を考察することが目的であるが、考古学的な知見とどのようなリンクをはるかについては、システムの構築を含めた課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 石田一裕 | 4. 巻 68-2 |
| 2. 論文標題 西方諸師の六修説について：特に防護修の成立背景について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 印度学仏教学研究 | 6. 最初と最後の頁 996-991 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 石田一裕 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『大毘婆沙論』研究の可能性 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 対法雑誌 | 6. 最初と最後の頁 27-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 石田一裕 | 4. 巻 67巻2号 |
| 2. 論文標題 西方諸師の『発智論』－有部の聖典伝承についての一考察－ | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 印度学仏教学研究 | 6. 最初と最後の頁 1005-1000 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4259/ibk.67.2_1005 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 ISHIDA Kazuhiro | 4. 巻 66 |
| 2. 論文標題 The Venerable Person from the Western Region in the Abhidharma Mahavibhasa Sastra | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies | 6. 最初と最後の頁 1085-1090 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4259/ibk.66.3_1085 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田一裕 |
| 2. 発表標題 西方諸師の六修説について：特に防護修の成立背景について |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第70回学術大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 石田一裕 |
| 2. 発表標題 『大毘婆沙論』研究の可能性 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第70回学術大会（パネル発表） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田一裕 |
| 2. 発表標題 西方諸師の『発智論』－有部の聖典伝承についての一考察－ |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第69回学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 石田一裕 |
| 2. 発表標題 『大毘婆沙論』における西方尊者 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第68回学術大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|